

★学校の教育目標	◎すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○さいごまでやりぬく子			★重点計画の概要	「地域がステージ 学びの変革」プロジェクト 豊かな自然環境など地域資源を生かした地域と連携した学び(地域が学びのステージ)を推進する。 ・地域資源を生かしたフィールドワーク ・学校図書館を活用した情報収集活動 ・既習事項を活用して深める学び合い ・《仲田小地域探究プラン》 探究的な学習過程に沿った学習の展開
★目指す学校像 (ビジョン)	①基礎的、基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して、自ら見いだした課題を思考力、判断力、表現力を活かしながら課題解決をする児童。また対話や情報等を活用して、意欲的に学ぶ児童。②自らすすんで基本的な生活習慣を整える児童。健康の保持・増進や体力の向上に励む児童。③「いのち」の尊さ・素晴らしさを自覚し、自分も他人も、動物も植物も、そのいのちを大切にしている児童。④①～③の目標達成に向けて、努力をする児童。自分のいまやるべきことを自覚し、最後まで成し遂げる児童。				
【目指す児童像】					
【目指す学校像】	○児童一人一人がいのちを大切に、可能性を伸ばしていく学校 ○教職員が向上心をもって学び、日々の教育実践に励む学校 ○保護者、地域が信頼をよせ、地域と共に歩む学校				
【目指す教師像】	○児童一人一人を大切に、児童理解と指導力をすすんで学ぶ教師 ○児童や保護者、地域の思いや願いを受け止め、寄り添って考え、課題解決に取り組んでいく教師 ○組織(チーム仲田小)として協働する教師 ○新たな試みにチャレンジし、自己変革を続ける教師				

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	○確かな学力の定着と、主体的・対話的で深い学びの充実を図る教育活動を推進する。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、自ら課題を見付け、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力の育成を図る。 ●「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習指導の工夫を推進する。	◎1時間の授業のめあてを明確にし、児童が学んだことの振り返りを行う。 ◎研究主題「地域がステージの教育活動～互いに学び合う活動を通して～」に向けた研究を推進する。「問い」をもち、児童自らが考える探究的な学びを推進するために、どの授業においても必ず対話や学び合いの時間を設ける。 ◎一人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びを推進する。 ◎学校図書館を情報センター・学習センターとして活用する。	3.1	4 90%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.4	4 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。	(委員評価3.6)	・学習問題を班やグループで調べたり、学び合ったり話し合ったりする活動では、肯定的な意見が92%だった。探究的・対話的な学び合いのスタイルが、授業において定着しているものと思われる。 ・学習者用端末を効果的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びを推進する。
					3 80%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。		
	○基本的な生活習慣作りと健康な体作りを推進する。	●自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。	◎「楽しさ」と「高まり」を実感する体育授業を工夫する。 ◎意図的に多様な運動を一定期間重点化し、持久走ウィーク、縄跳びウィーク等、日頃から児童が運動に親しむ機会を設定し、日常的に運動に親しみ、体力向上及び健康増進を図る。 ◎家庭や地域と連携して、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立、創意工夫を凝らした食育の充実を図る。	3.2	4 90%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.5	4 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。	(委員評価3.6)	・児童への質問項目において、93%の児童が、体育の授業や体育的行事、および食育の活動に主体的に取り組んでいることが分かった。持久走、なわとびの活動などは引き続き推進し、体力の向上を高めていく。 ・家庭や地域と連携して、創意工夫を凝らした食育の更なる充実を図る。
					3 80%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。		
みんなの多様な学びとあわせをつくる	○自他の「いのち」を大切に、思いやりの心を育む教育活動を推進する。	●「いのちの尊さ」を実感し、自他のいのちを大切にしようとする思いや考えをもつことができるようにする。 ●一人一人の児童理解に努め、児童の思いに寄り添い、自己肯定感・自己有用感を伸ばす教育を実践する。	◎「特別の教科 道徳」の授業を意図的・計画的に実践し、考え、議論する道徳授業を通して、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための道徳的実践力を養う。 ◎行事、各教科等で計画的に「いのちの尊さ」を意識した取組を行い、自他の「いのち」を大切にすることを育む教育活動を実践する。 ◎児童のよさをほめて伸ばす教育活動を推進する。	3.1	4 90%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.5	4 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。	(委員評価3.5)	・肯定的な意見が93%であった。道徳の学習を中心にして自他のいのちを大切に、児童理解に努めながら子供に寄り添う教育活動を推進していく。 ・更に自己有用感を高めるために児童のよさをほめて伸ばす教育活動を更に推進する。
					3 80%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。		
	○安全・安心な環境を作り、児童の安全に関する意識を高める。	●危機管理・安全指導計画に基づき、学校、地域における安全確保の徹底と児童自身の安全に関する意識の向上を図る。	◎ふれあい月間の取組や、いじめアンケート等を活用していじめの早期発見に努め、学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラーやSSW、巡回心理士等と連携しながら組織的に対応する。 ◎避難訓練、安全指導、安全点検、通学路点検、交通安全教室、自転車安全教室、セーフティ教室、防犯教室、SOSの出し方教室、薬物乱用防止教室、情報モラル指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。	3.2	4 90%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.5	4 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。	(委員評価3.3)	・日頃のいじめ防止指導や安全指導により児童の意識が高まってきている。しかし、不登校児童が増えているのでリソースルーム等を活用して対応していく。 ・児童評価(とても思う)が66%に対して保護者評価(とても思う)29%と低い。チーム仲田小として、全教職員で力を合わせながら、児童が安全・安心な学校生活を送れるよう、教育活動を進めていく。
					3 80%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。		
社会と未来に関き、みんなてつくる	○学校、家庭、地域社会が協働し、地域とともに創る教育活動を推進する。	●地域の環境や人材を活用しながら豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する学びを創意工夫する。 ●児童が地域の方々と活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、自分の生き方を考えたりしていけるようにする。	◎児童が豊かな学びを体験できるように、各学年、各教科等の年間指導計画等に基づき、外部専門家や学習支援ボランティア等を積極的に活用した創意工夫した教育活動を企画し、推進する。 ◎地域の自然環境や史跡等、地域資源を生かしたフィールドワークを充実させ、探究的・協働的な学習活動を推進する。	3.1	4 90%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.3	4 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。	(委員評価3.8)	・児童アンケートからは89%の児童が仲田小および地域に対して愛着をもっている。今年度の生活科・総合的な学習の時間の学習において意識が高まっていると考える。 ・地域がステージの教育活動をさらに展開し、児童の「郷土愛」を育てていく。
					3 80%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。		
	○集団の一員、社会の一員としての自覚と協同性を育む教育活動を推進する。	●望ましい人間関係の形成をはかり、社会へ参画しようとする意欲を高める。	◎挨拶を励行(あがるく、いつも、さきに、つづけて)し、望ましい人間関係の形成の基礎を育む。 ◎異年齢集団によるたてわり班活動や清掃活動等の奉仕活動を重視し、児童相互の交流を活発化することを通して、集団の一員としての自覚や互いに協力し思いやりのある態度と実践力を育成する。	3	4 90%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3.3	4 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。	(委員評価3.6)	・互いに協力し思いやりのある態度を育てるため、異学年交流は引き続き活性化させていく。合わせて、高学年のリーダーシップも支援し、育てていく。 ・教員自身が率先して挨拶を励行し、学校全体をあげて挨拶運動に取り組む。
					3 80%以上の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。